TEAC

ファイル転送ソフトウェア

# ViewFile Lite

## PL-A7650 取扱説明書

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読み下さい。

## もくじ


はじめに ・・・

### ※　画像メディアブラウザ GT Finder をご使用の場合

ViewFile Lite をコンピュータにインストールする必要はありません。
GT Finder は ViewFile Lite を使用しません。

### ※　動画レコーダ DV-700 をご使用の場合

VIEWFILE Image Sampler で 1 ショット 1 フレーム（0 秒）MPEG-2 ファイルを JPEG ファイルに変換するには、Ulead Video Studio をコンピュータにインストールする必要があります。

Ulead Video Studio をインストールしてあるにも関わらず、VIEWFILE Image Sampler で 1 ショット 1 フレーム（0 秒）MPEG-2 ファイルを JPEG ファイルに変換できない場合（MPEG-2 ファイルのまま転送されてしまう場合）は、Ulead Video Studio を起動してください。

上記の操作は一度行えば、以降は（コンピュータを再起動しても）再び行う必要はありません。
Ulead Video Studio を起動しておく必要もありません。

本書に記載の各会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。

# はじめに

ViewFile Lite は、VIEWFILE M-Receive、VIEWFILE Media Import、VIEWFILE Image Sampler、VIEWFILE Movie Player の 4 種類のソフトウェアの総称です。（以後はそれぞれ“M-Receive”、“Media Import”、“Image Sampler”、“Movie Player”と省略します。）
主に、ティアック製画像記録装置 MV シリーズ、DV-700 で記録した画像を画像ファイリングシステムへと転送するために使用します。

**M-Receive**

M-Receive は、MV シリーズや DV-700 からネットワークを介して転送される静止画／動画を受信し、ファイルとしてコンピュータのフォルダに保存します。

**Media Import**

Media Import は、MV シリーズや DV-700 で記録した MO ディスク、DVD-RAM ディスク、SD メモリカードの静止画／動画をコンピュータのフォルダに保存します。

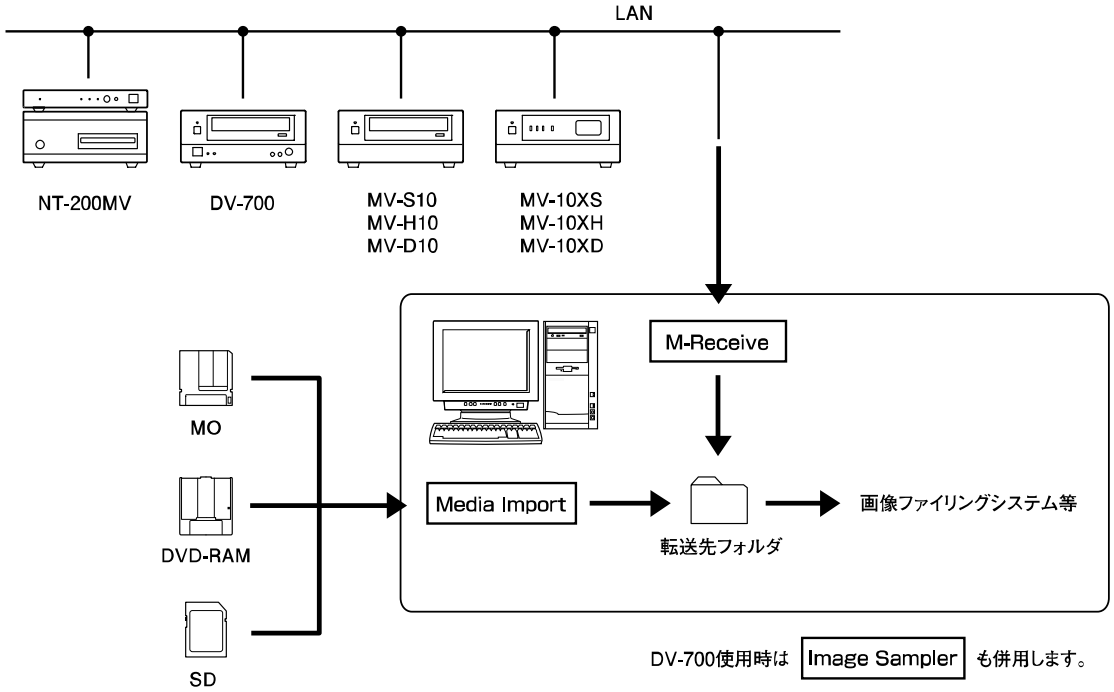
M-Receive、Media Import ともローカルコンピュータのハードディスクではなく、ネットワークに接続されているコンピュータの共有フォルダに保存することもできます。

**Image Sampler （DV-700 専用）**

Image Sampler は、M-Receive、Media Import で取り込んだ画像のうち、MPEG-2 フォーマットの 1 フレーム静止画を JPEG フォーマットに変換し、指定のフォルダに転送します。
初期設定では動画は動画のまま転送しますが、動画から静止画を抽出して転送することもできます。

**Movie Player（DV-700 専用）**

Movie Player は DV-700 で記録した動画ファイルを再生する動画再生アプリケーションです。
通常は、これらのファイルは Windows Media Player で再生することができます（Ulead Video Studio がインストールされている必要があります）が、コンピュータにインストールされている他の MPEG-2 再生ソフトウェアと競合して正常に再生できないことがあります。
このような場合でも Movie Player では正常に再生できます。



# 動作環境

| | |
|---|---|
| OS | Microsoft Windows 2000/XP/Vista/7（日本語版） |
| CPU | 動作クロック 1GHz 以上の Intel 互換（x86）プロセッサ |
| メモリ | 256MB 以上 |
| ハードディスク | プログラム領域として 20MB 以上の空き容量 |

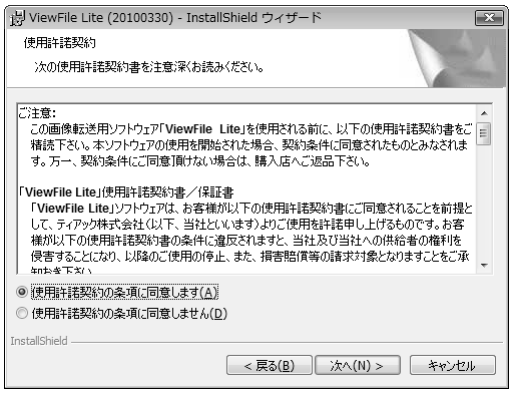
※ Image Sampler を使うには、Microsoft DirectX 7.0 以降、及び Ulead Video Studio が必要です。

# インストール

1. ViewFile Lite インストールディスクを CD-ROM ドライブに装填すると、自動起動によってインストールを開始します。自動的にインストールが開始しない場合は、インストールディスクの「setup.exe」をダブルクリックしてください。

2. 使用許諾契約

   インストール開始後、［次へ］をクリックします。

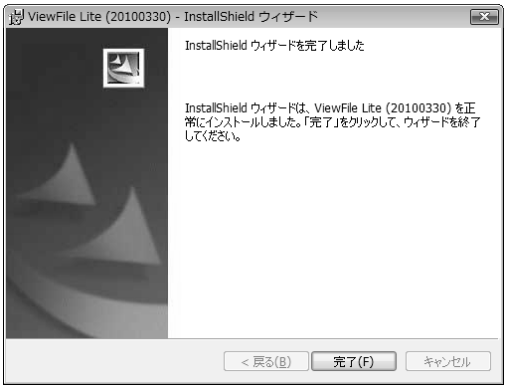



   「使用許諾契約の条項に同意します」を選択し、［次へ］をクリックします。

3. インストール先の指定

   このまま［次へ］をクリックし、その後表示される指示に従ってインストールを継続します。

4. インストール完了




   ViewFile Lite のインストールは完了しました。［完了］をクリックします。

# M-Receive の設定

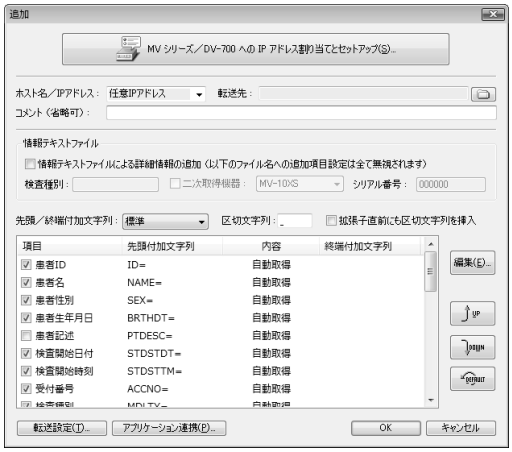
M-Receive を使うには事前に「受信セット」を作成しておく必要があります。受信セットとは、「画像ファイルをどこからどこに転送するか」の台本のようなものです。
受信セットを作成しておくことにより、自動的に画像データを受信し、指定のフォルダに保存することができます。

1. Windows の［スタート］メニューから［(すべての) プログラム］→［VIEWFILE］→［M-Receive］を選択します。

2. M-Receive のメインウィンドウが表示されます。

状態が「停止」であることを確認し、［追加］ボタンをクリックします。

3. ［追加］ウィンドウが表示されます。




最低限設定する必要があるのは、［ホスト名／IP アドレス］と［転送先］です。これら以外は初期設定のままでも画像の受信ができます。

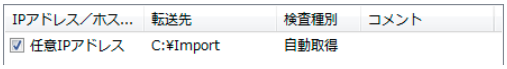
［ホスト名／IP アドレス］

転送元の MV シリーズ／DV-700 の IP アドレスを指定します。「任意 IP アドレス」を指定すると、ネットワーク上にあるどの MV シリーズ／DV-700 も、その全てを転送元と認識します。

［転送先フォルダ］

受信した画像データを保存するフォルダをフルパスで指定します。入力ボックス右側の ボタンをクリックすると、フォルダを選択するウィンドウが表示されます。

4. ［追加］ウィンドウの［OK］をクリックします。
メインウィンドウに、今設定した受信セットが表示されます。




5. さらに受信セットを追加するには、
［追加］ボタンをクリックします。

修正するには、修正したい受信セットをクリックして
［修正］ボタンをクリックします。

削除するには、削除したい受信セットクリックして
［削除］ボタンをクリックします。

● 同一の IP アドレス（「任意 IP アドレス」を含みます）を指定した受信セットを追加することはできません。

以上で M-Receive の設定は終わりです。

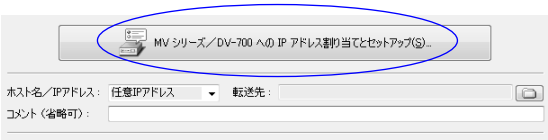
M-Receive で画像ファイルを受信するためには、M-Receive が動作するコンピュータと、接続される MV シリーズ／DV-700 の両方に適切なネットワーク設定が行われている必要があります。

次ページからコンピュータと MV シリーズ／DV-700 両方のネットワーク設定手順を解説します。

# MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定

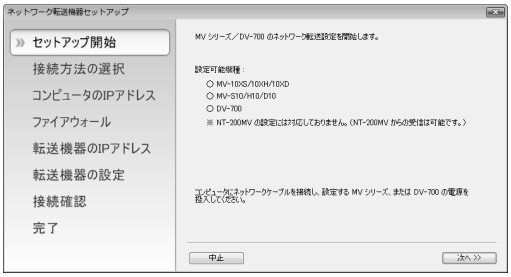
MV シリーズ、DV-700 から転送される画像ファイルを受信するには、M-Receive が動作するコンピュータと、接続する MV シリーズ／DV-700 全てのネットワーク設定が適切に行われていなくてはなりません。

これらの設定を行うために、M-Receive の「追加」（または「修正」）ウィンドウの［MV シリーズ／DV-700 への IP アドレス割当てとセットアップ］ボタンをクリックしてください。



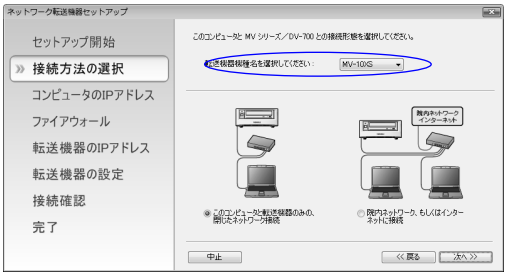

ネットワーク転送機器セットアップウィンドウが表示されます。ここからコンピュータのネットワーク設定と、MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定を開始します。

## 1. ネットワーク転送機器セットアップ開始




［次へ］ボタンをクリックします。

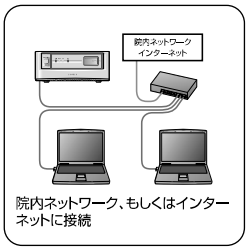
## 2. 接続形態の選択




接続する MV シリーズ／DV-700 の型式を選択し、さらに接続形態を選択します。

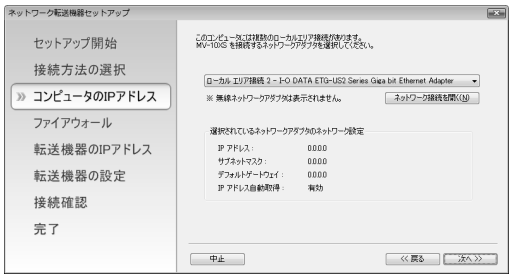
同一ネットワークにこのコンピュータと MV シリーズ／DV-700 のみが接続されている場合（一対一で接続する場合など）は、「このコンピュータと転送機器のみの閉じたネットワーク接続」を選択してください。

このコンピュータと MV シリーズ／DV-700 の他にも別のコンピュータなどが同一ネットワークに接続されている場合は、「院内ネットワーク、もしくはインターネットに接続」を選択してください。




［次へ］をクリックすると、「3. ネットワークアダプタの選択」に進みます。

## 3. ネットワークアダプタの選択



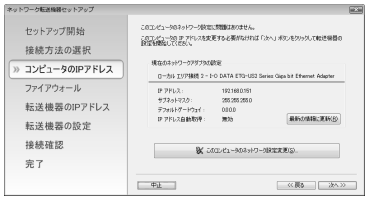

コンピュータに 1 つだけしかネットワークアダプタが存在しない場合はこのウィンドウは表示されません。「4. コンピュータのネットワーク設定の確認」に進みます。

MV シリーズ／DV-700 を接続するネットワークアダプタを選択して［次へ］をクリックしてください。

## 4. コンピュータのネットワーク設定の確認

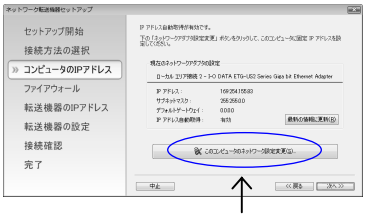
4-1. 「2. 接続形態の選択」で「このコンピュータと転送機器のみの閉じたネットワーク接続」を選択した場合

コンピュータのネットワーク設定が既に済んでおり、変更のが必要がない場合は［次へ］ボタンをクリックして「5. ファイアウォール」に進みます。



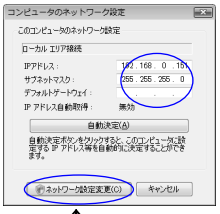

IP アドレス自動取得が無効の場合

MV シリーズ／DV-700 と接続するためには、コンピュータに固定 IP アドレスを割り当てる必要があります。IP アドレス自動取得が有効である場合は、［このコンピュータのネットワーク設定変更］ボタンをクリックしてネットワーク設定を変更してください。



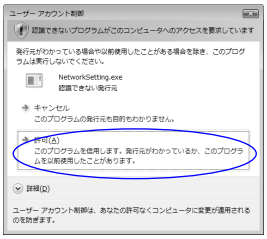

IP アドレス自動取得が有効の場合

クリックするとコンピュータのネットワーク設定を変更（下図）できます。

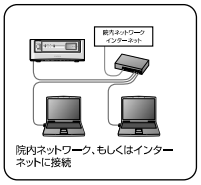



IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをネットワーク管理者に確認の上入力してください。

クリックすると入力した設定に変更します。
Windows Vista/7 の場合は、下のユーザーアカウント制御の確認ウィンドウが表示されますので、必ず［許可］をクリックしてください。

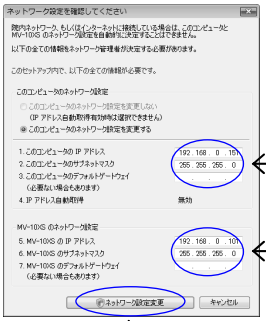



4-2. 「2. 接続形態の選択」で「院内ネットワーク、もしくはインターネットに接続」を選択した場合




コンピュータのネットワーク設定と、MV シリーズ／DV-700 に割り当てる IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを設定するウィンドウ（次ページ）が表示されます。

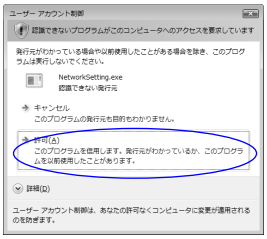
全ての設定をネットワーク管理者に確認の上入力してください。（次ページ）



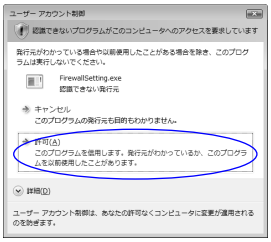
コンピュータのネットワーク設定

MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定

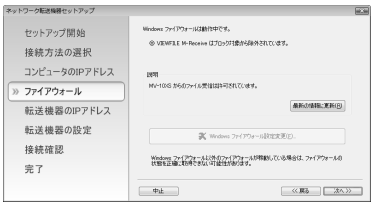
クリックすると入力した設定に変更します。
Windows Vista/7 の場合は、下のユーザーアカウント制御の確認ウィンドウが表示されますので、必ず［許可］をクリックしてください。



Windows Vista/7 の場合は、下のユーザーアカウント制御の確認ウィンドウが表示されますので、必ず［許可］をクリックしてください。



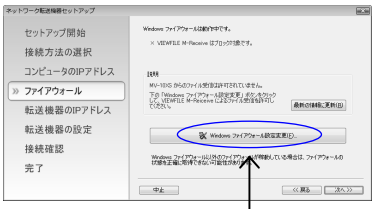
M-Receive が Windows ファイアウォールにブロックされることなくファイル受信可能である場合は以下のように表示されます。［次へ］ボタンをクリックして「6. MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定」に進みます。



設定の変更は必要ありません。

## 5. ファイアウォール

Windows ファイアウォールによって M-Receive がブロックされていると、ネットワーク設定が正しく行われていても MV シリーズ／DV-700 から画像ファイルを受信することができません。

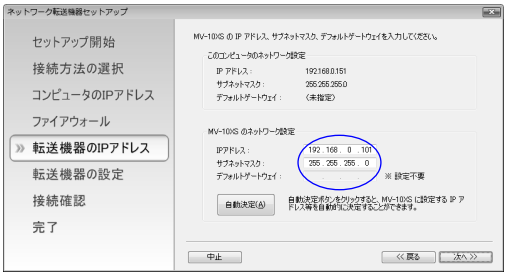


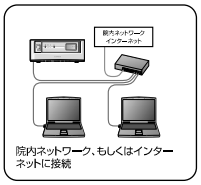
M-Receive のファイル受信がブロックされている場合（設定の変更が必要です。）

クリックして M-Receive のブロックを解除します。

クリックすると Windows ファイアウォールの設定を変更します。

## 6. MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定



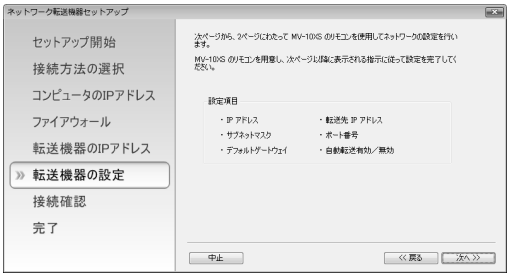



「2. 接続形態の選択」で「院内ネットワーク、もしくはインターネットに接続」を選択した場合は、既に MV シリーズ／DV-700 の IP アドレスやサブネットマスクを入力済みであるためこのウィンドウは表示されません。「7. MV シリーズ／DV-700 のリモコンによる設定操作」に進みます。

MV シリーズ／DV-700 に設定する IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイをこのまま変更する必要がなければ［次へ］ボタンをクリックしてください。

接続する MV シリーズ／DV-700 に割り当てる IP アドレスやサブネットマスクがネットワーク管理者より指定されている場合はその設定を入力の上、［次へ］ボタンをクリックしてください。

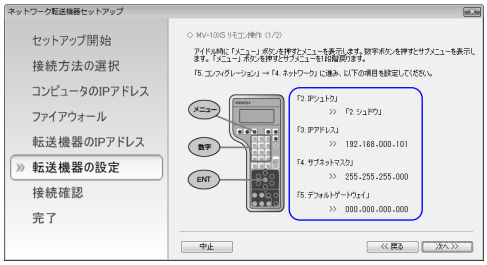
## 7. MV シリーズ／DV-700 のリモコンによる設定操作



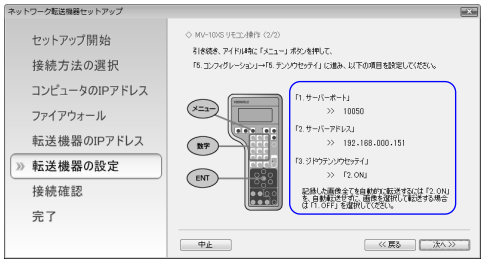

リモコンを操作して MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定を変更します。

［次へ］ボタンをクリックするとリモコン操作を 2 ページにわたって表示します。表示される設定値をリモコン操作により入力してください。

1 ページ（全 2 ページ中）



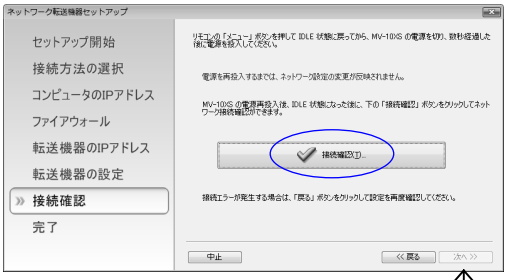

2 ページ（全 2 ページ中）




MV-10XS/XH/XD と MV-S10/H10/D10 との操作は同じです。DV-700 については操作が異なります。いずれの機種においても表示される操作手順に従ってください。

これら 2 ページ共に［次へ］ボタンをクリックすると「8. 接続確認」に進みます。

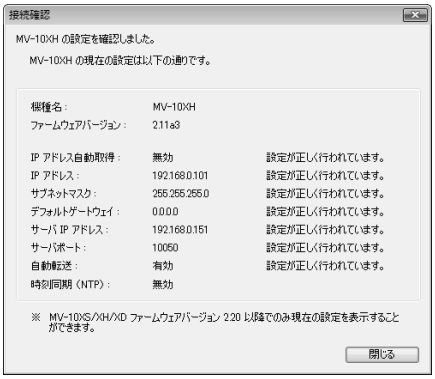
## 8. 接続確認




［接続確認］ボタンをクリックするまで有効になりません。

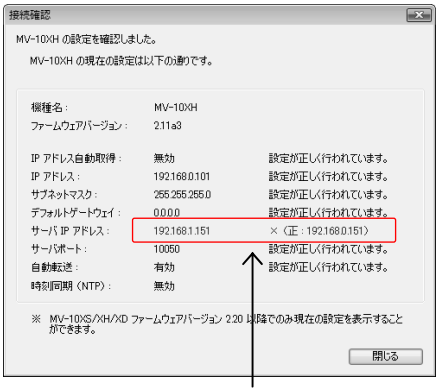
接続している MV シリーズ／DV-700 の電源を投入しなおした後に［接続確認］ボタンをクリックしてください。

● 接続テスト結果（MV-10XS/XH/XD）



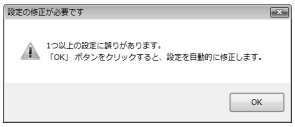

上図のように設定内容を表示できる機種は、ファームウェアバージョン 2.20（2010 年春出荷開始）以降の MV-10XS/XH/XD のみです。

MV-10XS/XH/XD のリモコンで設定が正しく行われていない場合は以下のように表示（一例）されます。



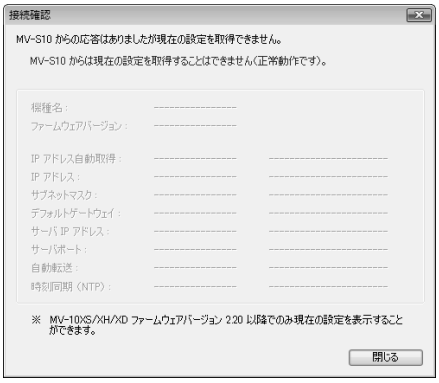

設定内容に誤りがあることを示しています。

［閉じる］ボタンをクリックすると以下の確認メッセージを表示します。




［OK］ボタンをクリックすると M-Receive が設定を修正し、再度接続確認を行います。

● 接続テスト結果（MV-S10/H10/D10、DV-700）




MV-S10/H10/D10 と DV-700 では、その IP アドレスにいずれかのネットワーク機器が接続されていることは確認できますが、現在の設定内容を表示することと、M-Receive によって設定を変更することはできません。

● 接続テスト結果（失敗）

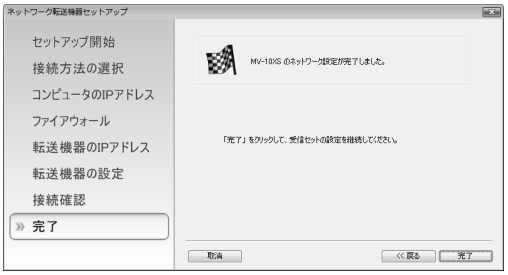
このように、「～が応答しません」というメッセージが表示される場合は、接続に失敗する原因として以下のようなことが考えられます。

- **ネットワークケーブルが接続されていない。**
- **コンピュータの IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの設定が間違っている。**
- **接続している MV シリーズ／DV-700 の IP アドレスかサブネットマスクが間違っている。**
- **MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定変更後に電源の再投入を行っていない。**

この状態のままでは、MV シリーズ／DV-700 からのファイル受信に成功することはありません。

各ケーブルの接続状態の確認の上、「1. ネットワーク転送機器セットアップ開始」からやり直してください。

## 9. 設定完了

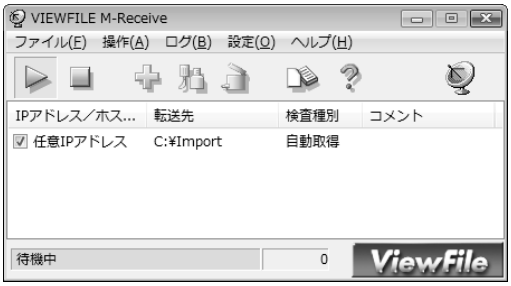



以上でコンピュータと MV シリーズ／DV-700 のネットワーク設定は完了です。

# M-Receive の使い方

M-Receive を起動する

1. Windows の［スタート］メニューから［(すべての) プログラム］→［VIEWFILE］→［M-Receive］を選択します。




M-Receive は初期設定により、起動と同時に受信待機状態になります。あとは何もする必要はありません。MV シリーズ／DV-700 側で転送動作が行われると自動的に受信します。

受信待機状態のときは設定を変更することはできません。設定を変更する場合は受信待機状態を解除してください。

受信待機状態を解除するには、

［受信停止］ボタンをクリックします。

2. M-Receive を終了するには、
［ファイル］メニューから［終了］を選択するか、ウィンドウ右上の［×］ボタンをクリックします。

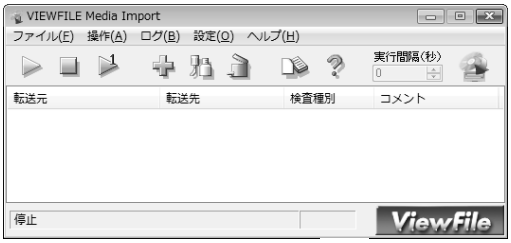
待機中／受信中は、終了ボタン［×］を押しても M-Receive は終了せずにタスクトレイ（通知領域）にしまわれます。
終了するには［ファイル］メニューの［終了］を選択してください。

# Media Import の設定

Media Import を使うには事前に「実行セット」を作成しておく必要があります。実行セットとは、「画像ファイルをどこからどこにコピーするのか」の台本のようなものです。
実行セットを作成しておくことにより、ボタンを 1 回クリックするだけでコピーすることができ、コピーのたびにフォルダを選択したりファイル名を変更したりする手間が省けます。

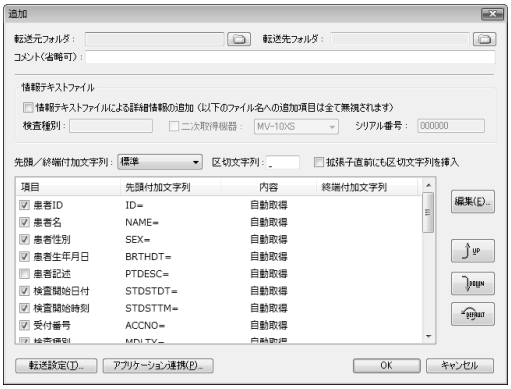
1. Windows の［スタート］メニューから［(すべての) プログラム］→［VIEWFILE］→［Media Import］を選択します。

2. Media Import のメインウィンドウが表示されます。




状態が「停止」であることを確認し、［追加］ボタンをクリックします。

3. ［追加］ウィンドウが表示されます。




最低限設定する必要があるのは、［転送元フォルダ］と［転送先フォルダ］です。これら以外は初期設定のままでも画像のコピーができます。

［転送元フォルダ］

コピー元メディアのルートフォルダ名をフルパスで指定します。入力ボックス右側のボタンをクリックすると、コピー元フォルダを選択するウィンドウが表示されます。

［転送先フォルダ］

コピー先のフォルダ名をフルパスで指定します。
入力ボックス右側のボタンをクリックすると、コピー先フォルダを選択するウィンドウが表示されます。

4. ［追加］ウィンドウで［OK］をクリックします。
メインウィンドウに、今設定した実行セットが表示されます。

5. さらに実行セットを追加するには、
［追加］ボタンをクリックします。

修正するには、修正したい実行セットをクリックして
［修正］ボタンをクリックします。

削除するには、削除したい実行セットクリックして
［削除］ボタンをクリックします。

● 転送元フォルダが重複する複数の実行セットを追加することはできますが、それらを同時に実行することはできません。

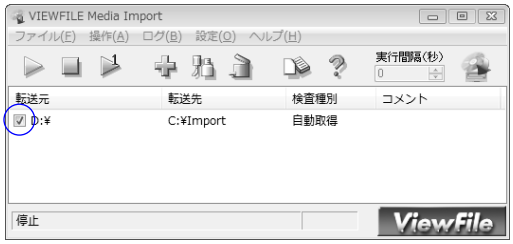
以上で Media Import の設定は終わりです。

# Media Import の使い方

1. ［転送元］のドライブに、MV シリーズまたは DV-700 で記録した SD メモリカード、またはディスクを入れます。

   このとき、SD メモリカードやディスクの書き込み禁止を解除してください。Media Import の初期設定では、コピーするとコピー済みのマーク（転送マーク）を SD メモリカードやディスクに書き込むようになっているからです。

2. メインウィンドウで、実行したい実行セットの左にチェックマークがあることを確認します。




3. ［一度だけ実行］ボタンをクリックします。

   コピーが始まります。コピーされるのは、前回のコピー以後に追加されたファイルだけです。

   コピーを中止するには、
   ［停止］ボタンをクリックします。

4. Media Import を終了するには、
   ［ファイル］メニューから［終了］を選択するか、ウィンドウ右上の［×］ボタンをクリックします。

   実行中は、終了ボタン［×］を押しても Media Import は終了せずにタスクトレイ（通知領域）にしまわれます。
   終了するには［ファイル］メニューの［終了］を選択してください。

［一時だけ実行］

このボタンをクリックすると、一度だけコピーを実行し、コピー終了後は停止状態になります。

［実行］

このボタンをクリックすると、まず 1 回コピーを実行します。そのコピーの終了後、［実行間隔］に設定した周期で全ての実行セットの転送元フォルダ（サブフォルダ含む）を確認します。そして未転送ファイルがあるとコピーします。

［実行間隔］は 0～99999（秒）の範囲で設定できます。0 に設定すると、転送元フォルダに変更があるとすぐにコピーを開始します。

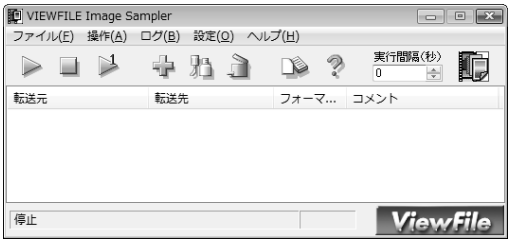
● ［実行］ボタンは初期設定では無効になっています。有効にするには［設定］メニューから［全般］を選択し、表示されたウィンドウで［「実行」ボタンを無効にする］のチェックを外します。

# Image Sampler の設定

Image Sampler を使うには事前に「実行セット」を作成しておく必要があります。実行セットとは、「画像ファイルをどこからどこに転送するのか」の台本のようなものです。実行セットを作っておくことにより、Image Sampler を起動するだけで指定のフォルダに転送することができます。

1. Windows の［スタート］メニューから［(すべての) プログラム］→［VIEWFILE］→［Image Sampler］を選択します。

2. Image Sampler のメインウィンドウが表示されます。




状態が「停止」であることを確認し、［追加］ボタンをクリックします。

3. ［追加］ウィンドウが表示されます。

ここでは最低限必要な設定だけを説明します。これら以外は通常は初期設定のままで構いません。

［転送元フォルダ］

転送元フォルダ名をフルパスで指定します。入力ボックス右側のボタンをクリックすると、転送元フォルダを選択するウィンドウが表示されます。

［転送先フォルダ］

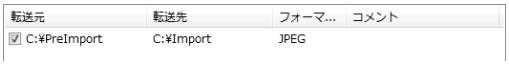
転送先のフォルダ名をフルパスで指定します。入力ボックス右側のボタンをクリックすると、転送先フォルダを選択するウィンドウが表示されます。

［コピー／移動］

［転送先にファイルを移動］をチェックします。

4. ［追加］ウィンドウで［OK］をクリックします。

メインウィンドウに、今設定した実行セットが表示されます。




5. さらに実行セットを追加するには、

［追加］ボタンをクリックします。

修正するには、修正したい実行セットをクリックして

［修正］ボタンをクリックします。

削除するには、削除したい実行セットクリックして

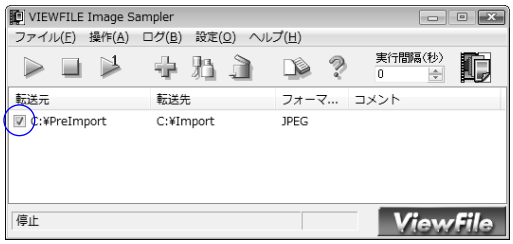
［削除］ボタンをクリックします。

● 転送元フォルダが重複する実行セットを追加することはできません。

以上で Image Sampler の設定は終わりです。

# Image Sampler の使い方

1. メインウィンドウで、実行したい実行セットの左にチェックマークがあることを確認します。




2. ［一度だけ実行］ボタンをクリックすると転送が始まります。

● 初期設定では、実行セットを少なくとも 1 つ追加した後に起動すると、起動と同時に転送が実行されるようになっています。この設定を変更するには、転送を中止し、［設定］メニューから［全般］を選択し、表示されたウィンドウで、［起動と同時に実行開始］のチェックを外します。

転送を中止するには、
［停止］ボタンをクリックします。

3. Image Sampler を終了するには、
［ファイル］メニューから［終了］を選択するか、ウィンドウ右上の［×］ボタンをクリックします。

実行中は、終了ボタン［×］を押しても Image Sampler は終了せずにタスクトレイ（通知領域）にしまわれます。終了するには［ファイル］メニューの［終了］を選択してください。

［実行］と ［一度だけ実行］

［実行］は転送を自動的に実行するモードです。転送元を指定の周期で監視して、未転送のファイルがあると転送します。

［一度だけ実行］を手動で転送するモードです。転送したいときにその都度転送を実行します。

［実行］

このボタンをクリックすると、まず 1 回転送を実行します。その転送の終了後、［実行間隔］に設定した周期で全ての実行セットの転送元フォルダ（サブフォルダ含む）を確認します。そして未転送ファイルがあると転送します。

［実行間隔］は 0～99999（秒）の範囲で設定できます。0 に設定すると、転送元フォルダに未転送ファイルが追加されるとすぐに転送します。

［一時だけ実行］

このボタンをクリックすると、一度だけ転送を実行し、転送終了後は停止状態になります。

ティアック株式会社

製品に関するお問い合わせは…　〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47
TEL　042-356-9160　FAX　042-356-9185

使い方に関するお問い合わせは…　TEL　042-356-9160　FAX　042-356-9185
受付時間　9:30〜12:00／13:00〜17:00（土・日・祝日を除く）

TEAC 医用画像ファイリングホームページ　http://www.teac.co.jp/industry/mv/index.html